

狛犬と手水舎

✦ 文 岩本耕太郎 text by Kotaro Iwamoto ✦

日本の神社の鳥居をくぐると参道の両脇に一对の狛犬があります。

狛犬自体は偶像ではなく、神社の守り役なので人々はそれを神として拜むことはしません。狛犬といいますが犬というより、どう見てもライオン（獅子）に見えます。

実際に向かって左側を狛犬、右側を獅子と呼ぶようです。

昔の日本にはライオンなどいなかったはずなのに、いったいこの狛犬（獅子）はどこからやって来たのでしょうか。日本には「獅子舞」という文化もあります。

もともとは中国大陸で盛んだった獅子舞は伎楽と共に日本に伝来し、宮廷や寺院の法会で演じられたとされ、日本書紀、推古天皇20年（612年）の記事に既に記されています。

神道の学者たちはこの狛犬がもともと中近東から来たと認めています。つまり中近東からシルクロードを通じて中国経由で日本に入ってきたということでしょう。中近東の様々な古代神殿からは、日本と同じような狛犬（獅子）が多数発見されています。

中近東の中でもイスラエルのソロモ

ン神殿がその起源ではないかといわれています。後述しますが聖書の列王記には紀元前10世紀に建てられたソロモン神殿の中に、ライオンの像やレリーフがあったと記されています。

日本の神社にはもうひとつ手水舎があります。「てみずや」と読んだり、「ちようずや」と読んだりします。これは参拝の前に手を洗って禊ぎをして心身を清めるといいうもので昔は足も洗ったそうです。

正式には柄杓を右手で持ち、まず左手を清め、柄杓を持ち替えて右手を清め、最後に左手に水を注いで口をすすぎます。

同様に古代イスラエル神殿でも、神殿の内庭に手足を洗い清めるために、青銅の洗盤とその台を作り、幕屋と祭壇の間に置き水を入れていました『出エジプト記30章』。

さらにこの洗盤には牛とライオンが铸込んであったとされています『列王記7章』。

ユダヤ教の教会をシナゴグと呼びますが、今でも正統派のシナゴグには、入り口付近に手を清めるための場所があり、水の栓がずらりと並んでい

ます。

こんなところにもユダヤ教と神道には共通点が多数みとめられるのです。



profile

帝国クリニック院長

1959年生まれ。幼少期をボストンで過ごす。

山形大学医学部卒。米国イリノイ州立大学で分子生物学を研究、1993年より現職。

サーフィンとクラシックカーをこよなく愛し、4世代7人家族。

著書に『患者さまが増える』（H&I出版）、『エグゼクティブが実践するたった一つの健康法』（中経出版）